



昨今の不審者騒ぎもあり、「子どもたちの安全を守る」ために膨大なエネルギーが注がれるようになった。命や安全を守ることの重要性に異を唱えるつもりはない。しかし、一方で忘れてはならないのが、子どもたちを育てるということ。特に、子どもたちが育つ（発達する）環境を保障することだと思う。現状はどうであろうか。

黒田弘行氏は環境教育辞典（労働旬報社）の中で、「子どもたちが人間としてゆたかに発達していくために、子どもたち自身が必要とする環境は破壊されている。」と、述べている。時間・空間・仲間という三つの「間」の現状（喪失）が子どもたちの人間としての発達を押し込んでいるのだという。

他にも、寄生虫博士で有名な医学博士の藤田紘一郎氏は、「我慢ができない、根気もない。体も弱いストレスもたまっている。今、日本の子どもがあぶないと思う」と、著書「バイキンが子どもを強くする」の冒頭で述べている。

先日、テレビで屋内の安全な遊び場所が紹介されていた。そこには、たくさんさんの監視カメラが設置されており、身分証を提示して入場すれば、様々な遊具で遊ぶことができる。遊具もいろ

いろな運動ができたりする優れもので、インストラクターもいる。砂場の砂は抗菌仕様。入場料は親子で千円を超えるが、利用者は急増しており、今後このような施設を増やしていくとのことだった。

大人の管理下でしか遊べない子どもたちは、果たして人間として豊かに発達することができるだろうか。

動物学者・人間学者である小原秀雄氏も、著書「現代ホモ・サピエンスの変貌」の冒頭で、「現代の人間が変貌しつつあるのは確かであろう。」と述べている。その中には、哺乳類である人間が種（ヒト）人間として発達していくとき重要なものが「刷り込み」というシステムで、子どもたちは母親やまわりの環境に働きかけ、その関わりの中で人間として発達していくことが紹介されている。

その働きかける対象の一つとして重要な「子ども社会」がこのところ失われてきていると思う。その結果、人間として豊かに発達できない子どもたちが親となり社会を支え、子どもたちを育てる。その繰り返しの中で、子どもたち、人間は変貌しつつあるのだろう。

人類五百万年の歴史の中で、このような状況はここ数十年に加速度的に進行していると思う。このことにどう対応していくか、考えていかななくてはならないと思う。安全はもちろん重要だが、子どもから多くの経験や失敗を奪う見せかけの安全は、本当の安全とは言えないだろうし、子どもの発達の場を奪う安全は、子どもや人間の将来を脅かすものになるのではないかと考える。

伝言板

富士北麓・東部地域振興局健康福祉部（大月保健所）

大月保健所と吉田保健所が統合されます

平成18年4月1日から、県の組織再編に伴い、富士北麓・東部地域振興局が廃止されるとともに、健康福祉部（大月保健所）と吉田保健所が統合して、新たに「富士・東部保健福祉事務所（富士・東部保健所）」が富士吉田合同庁舎に設置されます。

県内の他の保健所も統廃合による再編が行われ、甲府保健所、韮崎保健所、小笠原保健所が統合して、新たに「中北保健所」が甲府保健所合同庁舎に設置され、「中北保健所峡北支所」が北巨摩合同庁舎に設置されます。

石和保健所、日下部保健所も統合して、新たに「峡東保健所」が東山梨合同庁舎に設置されます。

身延保健所は、単独で南巨摩合同庁舎に「峡南保健所」として再編成されます。

ほとんどの保健所業務は新たな事務所に引き継がれますが、一般健康相談（クリニック・健康診断書の発行）は廃止されます。

また、申請・届出・相談などの窓口業務にもご不便をおかけすることになります。富士・東部保健所では、皆様へのサービスが低下しないよう、北都留合同庁舎での定期的な出張相談や

出張受付なども予定しておりますので、ご理解ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

◆住所
富士・東部保健福祉事務所
（富士・東部保健所）
富士吉田市上吉田1-2-5

◆電話（代表番号）
0555-24-9032

◆新たな組織体制

○福祉課

児童福祉、障害福祉、母子・寡婦・

父子福祉、生活保護等福祉関係業務

○長寿介護課

介護保険、老人保健、老人福祉等高

齢社会対策関係業務

○衛生課

食品衛生、生活衛生、薬事等衛生関

係業務

○地域保健課

健康づくり、感染症予防、精神保健

等地域保健関係業務

○健康支援課

母子保健、難病、特定疾患対策等健康支援関係業務